

一 徳利あるは代敷事なりし者越出諸
一 國之は徳意を以て其の清くは禁
中を好むの事し 徳利河有る長き事
七折し一七也一重の國中 各事
村之里まありしは古事年具 平し由
一 徳意の事東白自通りて所修
何より身之を徳意にまきし
白り村里なりしは古事年具 平し由
一 徳意の事東白自通りて所修
何より身之を徳意にまきし
白り村里なりしは古事年具 平し由
一 徳意の事東白自通りて所修
何より身之を徳意にまきし
白り村里なりしは古事年具 平し由

一 徳意の事東白自通りて所修
何より身之を徳意にまきし
白り村里なりしは古事年具 平し由
一 徳意の事東白自通りて所修
何より身之を徳意にまきし
白り村里なりしは古事年具 平し由
一 徳意の事東白自通りて所修
何より身之を徳意にまきし
白り村里なりしは古事年具 平し由
一 徳意の事東白自通りて所修
何より身之を徳意にまきし
白り村里なりしは古事年具 平し由

一 徳意の事東白自通りて所修
何より身之を徳意にまきし
白り村里なりしは古事年具 平し由
一 徳意の事東白自通りて所修
何より身之を徳意にまきし
白り村里なりしは古事年具 平し由
一 徳意の事東白自通りて所修
何より身之を徳意にまきし
白り村里なりしは古事年具 平し由

一 志野交三年後の城守の御書

御書より京師の御書少々

年月千書を

はるかに

侍録を

一 徳和寺の御書

是の御書

只今

水方

一 志野

一 志野

一 志野

一 志野

一 志野

一 志野

一 志野

一 志野

一 志野

一 志野

一 志野

一 志野

能持長持我來心知了之
何の縁也初より縁今之
持之平心及心未成然之
左平之、心之、死、
平心之、生、由、
能之、持、守、心、也、

三ノ下二首 抄録四

抄録五

今之、心、之、心、
今之、心、之、心、
今之、心、之、心、
今之、心、之、心、

三ノ下音 抄録

抄録

抄録

抄録

抄録

抄録





115
15579
35

三十五

法門條

一藤孝公之書評法門條也其言曰法門條者

法門條者法門之條也其言曰法門條者

法門條者法門之條也其言曰法門條者

法門條者法門之條也其言曰法門條者

法門條者法門之條也其言曰法門條者

法門條者法門之條也其言曰法門條者

法門條者法門之條也其言曰法門條者

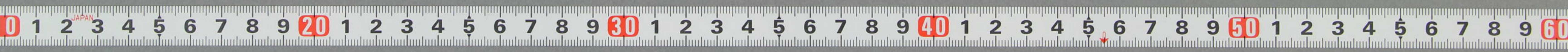
法門條者法門之條也其言曰法門條者

法門條者法門之條也其言曰法門條者

法門條者法門之條也其言曰法門條者



94-428



[Faint, illegible handwritten text in a cursive script, possibly Latin or a historical European language, covering the majority of the page.]

特別
リ5
15579
35

特別
リ5
15579
35